

庄内町立図書館だより

よめっちゃん

(本をたくさん

「読んでね」との願いを込めて)

2016. 2. 24 (No. 10)



図書館カレンダー

★開館時間

平日 午前9:00～午後6:00

(4月からは午後7:00まで開館)

土日 午前9:00～午後5:00

⇒休館日

3月



日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

4月



日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

おはなしらんどポップコーンの「おはなし会」

3/16(水) 10時～(4月はお休みです)

町立図書館ホールで開催！申込み不要です。

どなたでもお気軽にご参加ください◎

リサイクル資料 配布会のお知らせ

日時：3月12日(土)・13日(日) 2日間

午前9時～午後5時

場所：内藤秀因水彩画記念館 入口付近
(町立図書館入口よりお入りください)

その他：おひとり1回まで、10冊以内

ぜひご来館いただき、気に入った本を
お持ち帰りください♪



庄内町内藤秀因水彩画記念館

ギャラリートークを開催します！



特別展「庄内アートコレクション」(会期：三月十三日(日))では、庄内にゆかりのある若手画家三名の作品を展示しております。本展関連イベントとして、出展者の渡辺綾子氏、佐々木綾子氏によるギャラリートークを実施いたします。皆さまぜひお越しください。

▼とき：二月二十八日(日) 午後二時より(三十分程度)

▼ところ：内藤秀因水彩画記念館 第三展示室(特別展会場)

▼入場料：無料

春休み特別貸出

3/5(土)～4/3(日)



10冊貸し出しとなります！

ぜひご利用ください。

図書館の雑誌について

本館⇒週刊新潮・文藝春秋・家庭画報・庄内小僧・オレンジページ・kodomoe・すてきにハンドメイド・LEE・ダヴィンチ・Sports Graphic Number・きょうの健康

分館⇒きょうの料理・趣味の園芸・クロワッサン

図書館では上記の雑誌をご利用いただけます(最新号は館内閲覧のみ)。本館(余目)と分館(狩川)相互に貸し出しできます。詳しくはカウンターまで。

お問い合わせ 図書館・内藤秀因水彩画記念館

43-3039

分館 56-3308

図書館 HP→<http://www.town.shonai.lg.jp/library/>

～「別れ・卒業」がテーマの本～



3月は卒園・卒業シーズンです。親しい人との別れ、今の日常との別れ……色々な「別れ」がありますが、避けては通れないものなら、逆に味わうという手もあります。今回は「別れ・卒業」をテーマにした本を特集します。

卒業 重松 清／著(新潮社)

3月は、学校の卒業シーズンである。だが、日々の暮らしの中にも卒業と言える区切りや転換期が幾度も訪れる。この本には「人生の中の卒業」にまつわる家族の様々な人間模様が4つの短編に収められている。

せつなさの中にも人と人との間に流れる温もりを感じさせ、心の奥底にある魂をゆさぶられる感動の4編である。

「思い通りにはならない人生の悲しみを乗り越え、前向きに歩いていこうよ」と、そっと語りかけてくれる本である。



終わった人 内館牧子／著(講談社)

ひたすら挫折を繰り返しながらも、仕事ひとつに捧げてきた彼の人生、心に満たされない思いを抱えつつ、定年を迎えた。自分ももっと社会で活躍できるはず、再生はできるのか？その彼の心の描写がリアルに読者に伝わり、思わず自分の定年と重ね合わせぐい引き込まれた。「定年」という大きな卒業…この人生の分岐点、自分はどんな生き方をしたいのか、心にそっと問いかけつつ新たな抱負を思い描ける一冊！



そうか、もう君はいないのか

城山三郎／著(新潮社)

昭和二十六年の早春、休館中の図書館が縁で出会った容子さんを「妖精か天女か」とまで思いつめ、伴侶とした城山氏。本作は容子さんに関する遺稿をまとめ、著者の死後に出版されました。全頁、全ての言葉の端々から感じる妻への深い愛情に心打たれる一方、容子さんとの死別は著者にとって身を切り刻まれるに等しい事だったのでしょ…。書名は正に著者の心の内そのものだったのかもしれない。



親が死ぬまでにしたい55のこと 涙

親孝行実行委員会／著(アース・スターエンターテイメント)

これは55組の親子の物語です。多くが若くして親を亡くした方が「親にしてあげたかったこと・一緒にしたかったこと」を感謝・後悔の思いとともに綴っています。

最近祖父を亡くし、いずれ必ず訪れる親との別れについて意識するようになりました。いてもらって当たり前と思っている親との残りの時間の中で、自分ができることは何か、言葉にして伝えておきたいことは何かを考えさせられる一冊です。



©アース・スターエンターテイメント



センセイの鞆 川上弘美／著(平凡社)

高校を卒業した20年後、独り身のツキコさんは飲み屋でセンセイに再会する。おっとりとした国語教師のセンセイはなかなかの曲者で、「たで酔のみどり色は梅雨の空気とよく合いますね」と話すのと似た調子で、「すってやりました」とか「パチンコに行きましょう」などと言いつたりする。ぼつりぼつりと言葉を交わしながら時間を共有するうち、2人は心を寄せ合う。ツキコさんはセンセイとずっと一緒にいることを願うが……。

吟味された言葉で構築される世界には独特の浮遊感があり、物語を読むたのしさ、日本語の美しさを味わえます。



社会人大学人見知り学部卒業見込

若林正恭／著(KADOKAWA メディアファクトリー)

雑誌「ダ・ヴィンチ」のエッセイをまとめた単行本。

人見知りという共通点に、自分のことを重ねて読んでしまう。特に同意したのが、『好きなものを素直に“好き”と言うことがセーフな場合と、アウトな場合がある』という話と、『時と場合に応じて言葉も感情も選んでいるうちに、自分の本心はどうなのかが分からなくなってしまった』という話の2つ。彼と一歳違いの私も、まだまだ社会への参加の仕方を模索し続けなければならないようだ……。



こちらで紹介した本はすべて庄内町立図書館にございます。貸し出し中の場合は予約もできますので、お気軽にお問合せください😊